

平成28年度 国有林野事業業務研究発表会 発表課題一覧

《森林技術部門》

第一会場：農林水産省 本館7階 第3特別会議室

No.	発表時間	発表課題名	発表者		
			森林管理局	森林管理署等	氏名(元所属)
1	10:00 ~	大型機械による地拵の効果について ～下刈の省略化による低コスト造林の可能性を探る～	北海道	森林技術・支援センター	山崎 孝一
	10:20	伐採・造林の一貫作業の導入により、地拵作業は大型機械が一般的となりつつある。ササの根系を除去する大型機械地拵による植生回復の抑制効果から、その後の下刈回数の削減によるコスト低減について検証する。			
2	10:20 ~	低密度植栽で造成されたスギ・ヒノキの標準伐倒期を超えた林分の林分構造及び材質(幹形・強度)調査結果について	近畿中国	広島森林管理署	堂園 理一郎
	10:40	低密度植栽試験地からの成果として、保育間伐前のヒノキでは1500～2000本の植栽密度は、3000本植栽と比較して生長や形質面で変わらないことがわかった。1回目の間伐から10年経過した林分での林分構造及び材質(幹形・強度)調査を実施した。			
3	10:40 ~	機械力に応じた低コスト作業システム構築の取り組みについて	北海道	後志森林管理署	松田 清 小林 大樹
	11:00	地域において、生産性向上意欲はあるものの工程管理や分析を行っていないケースが多いことから、低コスト作業システム構築を地域課題として、簡易な工程管理システムを開発したので、それを紹介し、今後について考察する。			
【休憩 15分】 11:00 ~ 11:15					
4	11:15 ~	合板材における層積検知の活用について	東北	米代東部森林管理署 上小阿仁支署	鈴木 諒 山田 淳 西周 真宏
	11:35	東北局における現在の検知方法は、低質材のみが層積となっているところであり、コストの面等から合板材でも活用出来ないか、毎木検知と層積検知を比較、検証を行い換算率の考察を行った。			
5	11:35 ~	収穫調査の省力化にむけて ～ピッターリッパ法の精度検証～	近畿中国	広島北部森林管理署	東 勇太 (元 島根森林管理署)
	11:55	収穫調査において、主流の標準地調査法より簡易な「ピッターリッパ法」の特にデジタル機器を用いた手法に着目し、将来的に本方法による収穫調査実施を目指し、データの蓄積を目的として誤差率やコストを検証した。			
6	11:55 ~	素材生産における技術交流の促進 ～民間事業者が連携した技術研修会の実施～	四国	四万十森林管理署	酒井 克馬 山内 勇樹
	12:15	素材生産事業の集材には、ワイヤーロープが主に使用されているが、ワイヤーロープよりも軽く、取扱が簡単な繊維ロープを活用した集材方法について、署の呼びかけにより事業者の研修会を実施、その結果等について発表する。			
【昼休み 60分】 12:15 ~ 13:15					
7	13:15 ~	“大館曲げわっぱ協定”に基づく適材木の供給に向けた取組	東北	米代東部森林管理署 下北森林管理署	牧田 朋子 末廣 雄二 (元 米代東部森林管理署)
	13:35	地域の伝統工芸品である「大館曲げわっぱ」の原材料確保に向け、産学官で連携し、天然杉に代わる「曲げやすい人工杉」の選別調査を行った。また、その需要量をアンケート調査し、国有林からの適材木供給の可能性について検討した。			
8	13:35 ~	二次林及び針広混交林におけるウダイカンパの活用を目指して	中部	富山森林管理署	山本 通明 住 裕介
	13:55	二次林及び針広混交林におけるウダイカンパの木材利用を目指して、その成長過程を調査し、大径木生産を目標とした今後の施業方法について検討した。			
9	13:55 ~	富士山山麓のヒノキ一斉大面積人工林における新たな森林施業	関東	静岡森林管理署	安井 一太 長野 祐介
	14:15	富士山西麓において、①高効率で低コストな人工林施業の実施、②広葉樹主体の溪畔保護樹帯の育成、③ニホンジカの個体数管理を主題とした施業プロジェクトを実施しており、その概要と経過を報告する。			
10	14:15 ~	ヒノキ天然林における結実豊凶と実生の消長	中部	木曾森林管理署	久保 喬之 今井 歩
	14:35	森林の更新過程や天然更新技術を検討するうえで、種子生産、発芽、実生定着、稚樹の成長などの更新初期過程は非常に重要であり、ヒノキ天然林において、結実豊凶パターン、実生発生・消失過程の調査を行った。			
【休憩 20分】 14:35 ~ 14:55					
11	14:55 ~	改良型傾斜付横断溝の開発及び実地試験結果	四国	森林整備部 森林整備課	東別府 省伍 小杉 陵太
	15:15	四国では豪雨等による林道の路肩の崩壊等が多発しており、効果的な排水処理が必要不可欠。そこで、省メンテナンス・低コスト化を目的として、かつて四国局で考案した「傾斜付横断溝」を改良した試験体を開発・設置、その効果を検証し発表する。			
12	15:15 ~	民有林GISデータ等を活用した官行造林事業の取組み	九州	大分森林管理署	小畑 暢
	15:35	官行造林地は境界線の不明なものが多く、また、地図データは誤差が大きくGIS・GPSが実用上利用できない状況にあり業務に支障が生じている現状から、その対策としてGISやハンディーGPSで使える地図データの自作に取り組んだので報告する。			
13	15:35 ~	避難指示解除区域等における施業再開実証事業の取組状況等について	関東	森林放射性物質汚染対策センター 磐城森林管理署	中村 信平 小池 遊喜
	15:55	福島第一原発事故による避難区域等の森林整備等の円滑な再開に向けた放射性物質の拡散防止や作業員の被ばく低減等手法の実証、実証事業で発生した木材の活用を図るための検討、これらの取組状況を報告する。			
14	15:55 ~	公益的機能維持増進協定の取組	九州	鹿児島森林管理署	吉田 貴博 佐藤 英也
	16:15	地域における森林の公益的機能をより一層増進するための「公益的機能維持増進協定制度」が創設された。霧島市国分川内地域公益的機能維持増進協定を締結し、森林整備事業(保育間伐「活用型」)を実施した取組について報告する。			

《森林ふれあい部門》

第二会場：農林水産省 本館7階 共用第1会議室(午前)

No.	発表時間	発表課題名	発表者		
			森林管理局	森林管理署等	氏名(元所属)
1	10:00 ~	森林環境教育のニーズとマッチングを探る	北海道	知床森林生態系保全センター	長谷部 文香 (元 胆振東部森林管理署)
	10:20	近年、森林環境教育のニーズは増加しており、それに応えるため、教科書を利用して、森林環境教育をより学校教育の現場に取り入れやすくする方法を検討し、その事例と考察を報告する。			
2	10:20 ~	疑似体験型森林教室「白神バーチャル体験」について(中間報告)	東北	津軽白神森林生態系保全センター 津軽森林管理署 米代西部森林管理署	久保 翔太郎 中村 拓哉 福田 雄貴
	10:40	従来の森林教室は屋外の活動が基本で、参加者は高齢の健康者に偏っていた。若い世代や高齢者・障がい者施設に入居している方々にも森林浴を体験してもらいたいと考え、屋内に森林を再現し、森林浴を行うプログラムを考案した。			
3	10:40 ~	国有林を活用した「下呂の森を巡るツアー」の開催～地域連携の視点から～	中部	岐阜森林管理署	大島 愛彦 平柝 潤己
	11:00	国民に対して国有林の存在及び森林管理署の名称をPRし、森林の役割や大切さを知ってもらうため、地域のNPO法人と連携して国有林を見学するツアーを開催。2年の取組結果から森林ふれあい事業のあり方を提言する。			
【休憩 15分】 11:00 ~ 11:15					
4	11:15 ~	山口森林管理事務所における民国連携の取組について～地域に愛される国有林を目指して～	近畿中国	山口森林管理事務所	中嶋 俊介 平尾 夏郁子
	11:35	山口所では、地域の方々にもっと森林の魅力や伝え、触れ合いを深めてもらい、森林に関わる行動を起こすきっかけをつくってもらおうと、若い女性をメインターゲットに山口市や関係団体と協力して、森林フォーラムを開催したのでその取組を紹介する。			
5	11:35 ~	森林環境教育の実践手法	四国	四万十川森林ふれあい推進センター	松山 浩信 川村 春喜
	11:55	当センター作成の「森林環境教育プログラム」の中から、小学校の教科書に記述されている森林・林業に関わるプログラムを2校の小学校で実施し、森林の大切さ、木材利用等の理解に繋げた取組を発表する。			
6	11:55 ~	「広報誌洋上アルプス・手作り植物図鑑・・・」～世界自然遺産屋久島からの情報発信～	九州	屋久島森林生態系保全センター 計画保全部 計画課	山崎 勇勝 竹部 浩一郎 (元 屋久島保全センター)
	12:15	これまで、当センターが情報発信として、285号を発行した広報誌「洋上アルプス」や「屋久島の森林」、歴代の職員が撮影した植物写真を取りまとめ作成した「手作り図鑑」等の取組みについて報告する。			
【昼休み 60分】 12:15 ~ 13:15					

《森林保全部門》

第二会場：農林水産省 本館7階 共用第1会議室(午後)

No.	発表時間	発表課題名	発表者		
			森林管理局	森林管理署等	氏名(元所属)
1	13:15 ~	治山ダム改良後のサケ科魚類の生息状況について	北海道	森林整備部 資源活用第一課 網走南部森林管理署	中村 友紀 (元 網走南部森林管理署) 三橋 伸太郎
	13:35	斜里川流域において生態系の保全を目的とした治山ダムの改良プロジェクトを進めている。この効果検証のため、魚道を設置した治山ダム周辺でサケ科魚類の観察や生息範囲の調査を行ったので、結果と考察について発表する。			
2	13:35 ~	松くい虫被害木の有効利用について～嫌われ松この一考～	東北	庄内森林管理署 岩手南部森林管理署 遠野支署	木村 研士 (元 岩手南部署遠野支署) 石橋 史朗
	13:55	松くい虫被害木の燻蒸材を薪として利用可能かどうか検証するため、聞き取り調査と燃焼実験を行った。その結果、薪としての需要も有り、煙突に付着するスス量もアカマツ(正常材)・ナラに比べて少ないことが分かった。			
3	13:55 ~	クマタカを指標とした国有林野の管理手法の考察～赤谷プロジェクトにおける生物多様性の保全と森林資源の循環利用の両立に向けて～	関東	静岡森林管理署 (公財)日本自然保護協会	都築 高志 (元 計画保全部計画課) 出島 誠一
	14:15	赤谷プロジェクトの課題である、「生物多様性の保全と資源の循環利用の両立」に向け、森林性の猛禽類であるクマタカを指標として、森林管理の方向性や必要な森林施業のあり方について、具体的な検討を行ったので、その結果を報告する。			
4	14:15 ~	立木利用シカ柵の設置試験について	中部	東濃森林管理署	羽田野 幸保 森下 佳宏
	14:35	木杭によるシカ柵設置は経費・労働面での負担が大きく、今後主伐再造林等によるシカ柵作業の増加に対し低コスト仕様確立が喫緊の課題となっている。今回選択肢の一考察として実施した設置試験取組事例について報告する。			
【休憩 20分】 14:35 ~ 14:55					
5	14:55 ~	地域関係者が一体となったニホンジカ被害防止の取組	近畿中国	箕面森林ふれあい推進センター	才本 隆司
	15:15	シカ被害防止対策を効果的に実施するため、当センターなど行政や市民等で構成する協議会において、捕獲及び防除、調査、広報・啓発の取組方針を決め、一体となって対策に取り組んでいる。また、首用くり罟等新技術の実証も行っている。			
6	15:15 ~	嶺北森林管理署管内におけるニホンジカ生息調査及び捕獲・駆除対策について	四国	嶺北森林管理署	鶴内 和典 筒井 達朗
	15:35	職員による目撃情報、センサーカメラの設置等により収集したデータを活用し、職員・委託等による捕獲効率の向上の取組と、民間企業と協定を締結し民国が連携したニホンジカの捕獲駆除に対する取組について発表する。			
7	15:35 ~	シカネット設置後の効果検証及び被害の傾向と対策について	九州	森林技術・支援センター	梶丸 正幸 池水 寛治
	15:55	再造林コスト上昇の一因がシカ被害対策であることから、防護ネットやツリーシェルターの設置に係るコストの検証と設置後の防護効果、ネット等の各種保護材の破損原因調査に基づく維持管理手法、シカ誘引剤を活用した新たなシカ捕獲手法の可能性について報告する。			
特別発表	15:55 ~	国有林における生物多様性の定量化について	林野庁	国有林野部 経営企画課 国有林野生態系保全室	兼光 修平
	16:15	国有林では生物多様性の状況を定量化・可視化出来る体制の構築に取り組んできた。平成28年度より運用が始まった定量化手法の開発までの取組と、その活用イメージについて報告する。			